

# 内戦と現代アラブ共和国の苦境

## ——地域研究の観点から見るシリア——

平成 26 年入学  
派遣先国：ヨルダン王国  
村中 美菜子

キーワード：シリア内戦，国際関係，シリア難民

### 対象とする問題の概要

シリア内戦は現代中東においてもっとも深刻な問題のひとつである。西欧列強による植民地支配を経て、国民国家システムに基づき形成された現代シリアにおいては、その国家成立過程において構造的な矛盾が生じた。その中で、40年にわたるバアス党支配を通じて蓄積した政治・経済・社会的矛盾が、グローバル化時代の国際政治・中東域内政治の変容と相互に結びつき、内戦として暴力的に顕在化していると考えられる。また、内戦のアクターは多様で複雑に入り組んでおり、それぞれが目指しているものが異なるために、内戦そのものの複雑さも一層増しているように思われる。国際社会の介入も含めてその様相は日々変容しており、混沌とした状況が続く中で、開始から3年以上経過してもなお内戦終結の見通しはついていない。

### 研究目的

本研究では、シリア内戦とは一体何であるか、という大きな問いについて考えたい。そのためには、包括的な視点から内戦の構造的要因を分析し、中東域内外の政治の変容との相互関連について考察する必要があると考える。また、長期独裁政権下における人びとの暮らしと、内戦によって死者数が増え続け、多くのシリア国民がシリア国内外で難民化している現状から、シリアにおける人びとの安全を取り巻く環境の変容についても考察したい。

この目的を達成するために、まず現代シリアの国家成立期以降の政治・経済・社会状況について、主に文献資料をもとに研究を進める。また、内戦以降の状況については適宜メディアの情報なども取り入れていく。さらに、フィールドワークを行い、実際に見聞きしてきた現状をふまえて研究を行いたい。

### フィールドワークから得られた知見について

今回のフィールドワークでは、歴史的シリア（シャーム地方）に含まれるヨルダン王国を訪れ、シリア人難民への聞き取り調査を行った。現在ヨルダンには、シリアとの国境近くの難民キャンプや都市部にも多数のシリア人難民が生活しており、今回は首都アンマンに暮らす難民の家庭を訪問して生活状況を知るとともに、内戦に関する聞き取りを行い、市民の視点からシリア内戦をとらえることを目的とした。また、ヨルダン北部のマフラク県にあるザアタリ難民キャンプを訪問し、キャンプ内の様子や子供たちが通う学校での授業風景を見学するなどして、シリア人難民の置かれた現状を知ることができた。さらに、内戦で負傷したシリア人を受け入れているアンマン市内の病院を訪問し、入院している子供たちと面会した。この訪問では、子供たちの状態や彼らの家族の悲痛な様子から、内戦の悲惨さを痛感す

ることとなった。



(写真 1. シリア人難民の家庭の子供たち)



(写真 2. ザアタリ難民キャンプにて)

また他に、文献収集とアラビア語力の強化にも取り組んだ。いわゆる「アラブの春」とシリア内戦が始まって数年ではあるが、アンマンの書店では関連書籍を多数見つけることができた。それらの文献を使用してアラビア語学習に取り組んだことで、研究関連の語彙力が上がり、文献や現地新聞を読む速度、アラビア語ニュースの理解度が増したことが実感できた。

今回のフィールドワークは、シリアに隣接する国での調査ということもあり、連日のメディアの報道や難民の現状に触れることで、シリア内戦の一端を見ることができた。



(写真 3. アンマン市内の書店にて)

### 今後の展開・反省点

安全面を考慮すると、今後もしばらく研究対象であるシリアに入国することはできないと考えられる。この状況をふまえ、今後の研究をいかにリアリティのあるものにしていくかということをもとに考えなければならない。今回は隣国のヨルダンで調査を行ったが、こうしたシリア周辺国での調査においていかに情報を集め、どう使うかという点が課題である。

またこれまで、シリア内戦の構造的要因を分析しながら勉強を進めてきたが、今後はフィールドワークを通じて得られた現地感覚も取り込み、さらに研究を深めていきたい。